

ベトナム情報レポート（2021年7月31日）

（公財）大阪産業局 ベトナムビジネスサポートデスク
株式会社NCネットワーク

またコロナの話になってしまうのですが、ちょうど1か月前はベトナム北部バクザン省で工業団地を中心とした集団感染による移動制限から、工場に寝泊まりしないといけない状況をお伝えしましたが、7月中旬に通常操業になりました。約2か月工場に寝泊まりしていたということで想像を絶します。

現在、それと同じような状況が南部に起こっています。ホーチミンでは過去最大の新規陽性者数（1日5,000人程）が発生し、市内の至る所で部分的ロックダウン、レストランもデリバリー禁止、開いているのはスーパー、薬局、銀行くらいです。そして先日、午後6時から午前6時の夜間外出禁止令が出ました。どうやら、多くの病院は患者でいっぱいだと言われています。救急車も足りず、呼んでも来ないということもあるようです。（ニュースではあまり触れられていません）

ホーチミン近隣にある省でも拡大が続いており、省をまたぐ移動に制限がかけられています。いくつかの工業団地では集団感染が発生し、ある工業団地では約30%の工場だけ操業、他の工場は、具体的なコロナ対策、工場内の仕様、工場での寝泊まり、もしくは周辺ホテルへの滞在を計画し、人の移動を制限するよう保健局より求められており、今は操業許可を自宅で待っている状況ということでした。早く操業してほしいと思う反面、開始されればいつ自宅に帰れるか分からない状況に不安であると言っていました。

コロナ対策やスタッフへの3食の食事等々、いつもはかからない経費が余計に掛かることとなります。北部にある中小製造業は、工場の操業停止によりUS\$20,000くらい余計にかかったと言っていました。

ワクチン接種が進んでいない中、特に在留外国人はだんだん不安が増していると思います。